

# AREホールディングス株式会社 2025年3月期 第3四半期決算説明資料

2025.1.29

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# I. 2025年3月期 第3四半期決算 (2024年4月～2024年12月)

## II. 参考資料

売上収益

前年同期比

3Q累計計画比

3,730 億円

+1,497 億円

通期修正予想

4,800

単位:億円

3Q累計

923

1,481

1,326

計画進捗率  
77.7%

1Q

2Q

3Q

営業利益

前年同期比

3Q累計計画比

147 億円

+68 億円

通期修正予想

180

単位:億円

3Q累計

36

47

64

計画進捗率  
81.6%

1Q

2Q

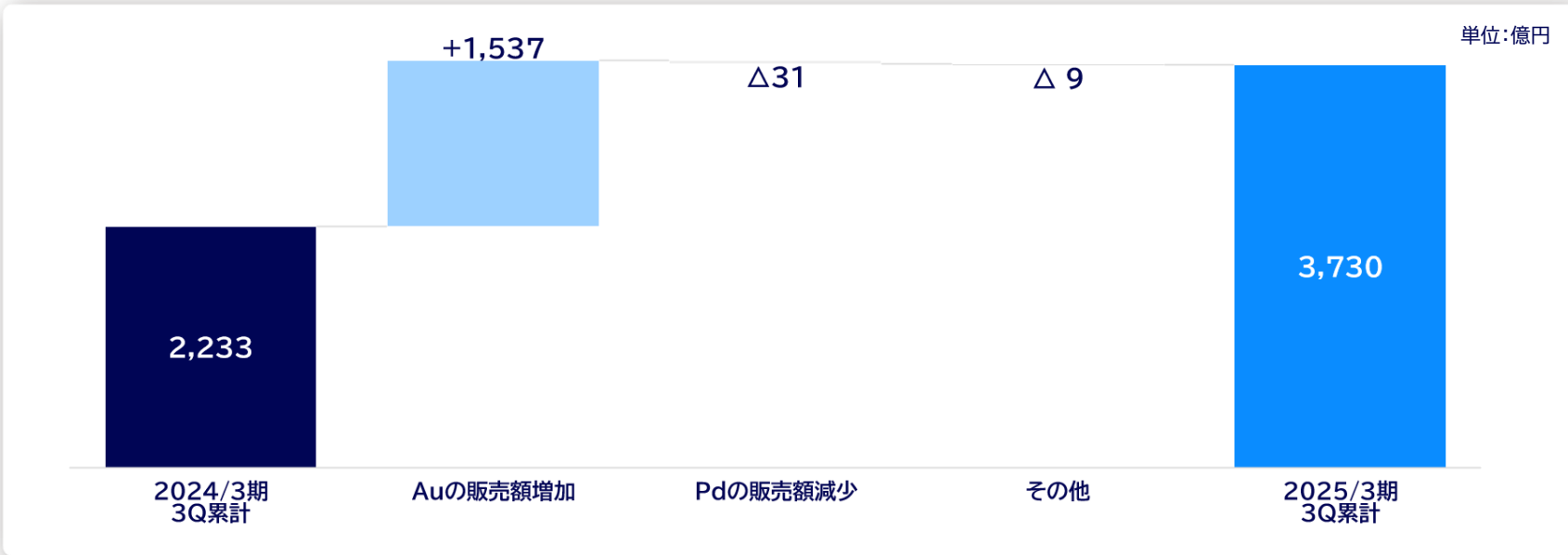
3Q

単位: 億円

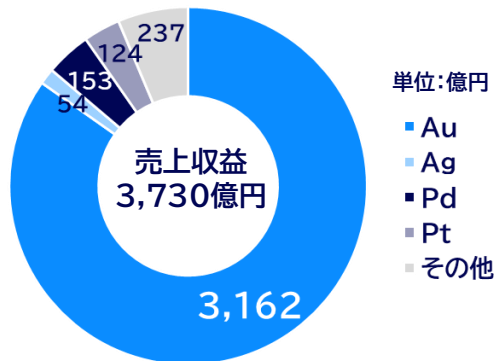
	2024/3期 3Q累計	2025/3期 3Q累計		2025/3期
	実績	実績	前年同期比 増減	修正予想
売上収益	2,233	3,730	+1,497	4,800
営業利益	79	147	+68	180
当期利益	71	114	+43	131

※ 「当期利益」は親会社の所有者に帰属する当期利益

※ 2024/3期3Q累計の売上収益、営業利益は非継続事業(ジャパンウエイスト社)を除いた金額

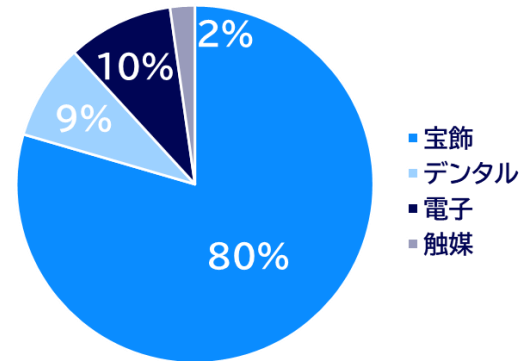


元素別売上構成比



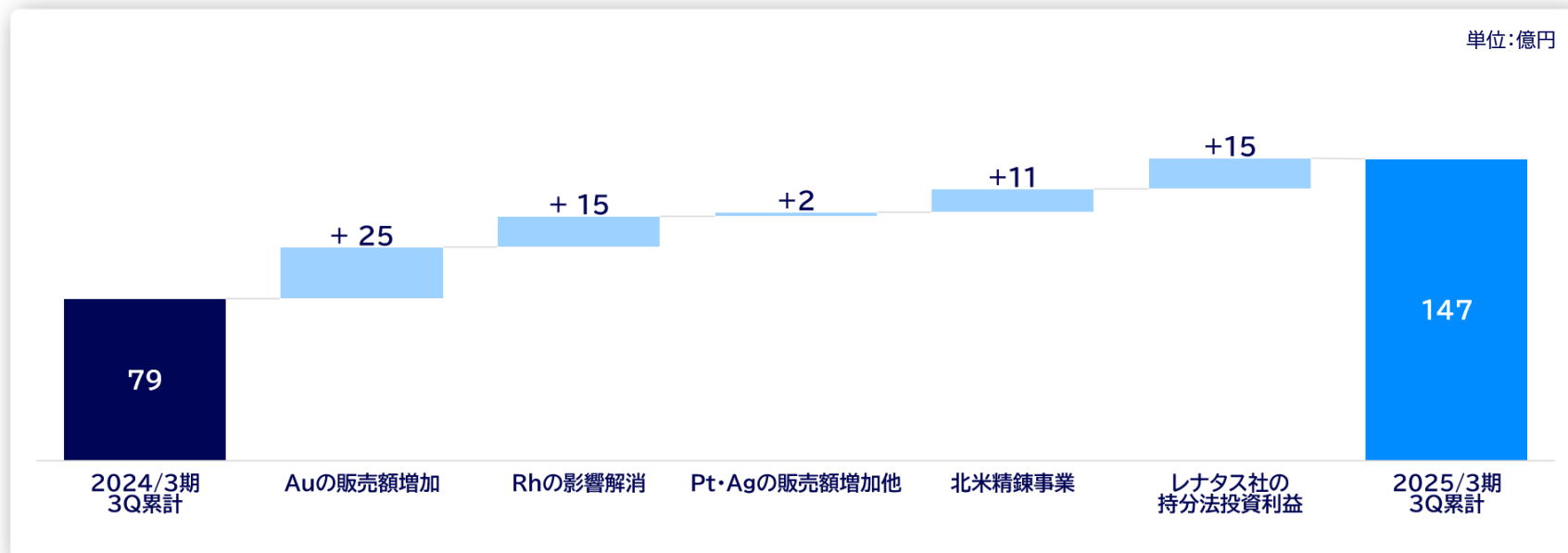
※「その他」にはRhの販売額および北米精錬事業の売上収益を含む

回収分野別売上構成比



※ 国内の貴金属リサイクル事業における回収分野別の売上構成比  
 ※ 北米精錬事業および国内のリテール事業等による売上収益は含まない

単位:億円



単位:円

貴金属価格 (1gあたり)	2024/3期	2025/3期	
	3Q(4月~12月)	3Q(4月~12月)	
	期中 平均価格	期中 平均価格	増減
金	9,054	12,225	3,171
パラジウム	5,881	4,930	△ 951
プラチナ	4,481	4,841	360
ロジウム	21,746	22,484	738

【参照元】金…山元建値、パラジウム…日経安値、プラチナ…小売価格(税抜)、ロジウム… Metals Week NY Dealer Prices

## Point

- 宝飾分野を中心に金の回収量が増加
- 北米精錬事業は製品事業の低迷が続く中、トレーディング事業および精錬事業が好調に推移
- 前期には非継続事業となったジャパンウェイスト社の実績が含まれない一方、当期にはレナタス社の持分法投資損益が含まれている

### 貴金属事業セグメント

売上収益 **3,729** 億円 (前年同期比+1,496億円)

営業利益 **134** 億円 (前年同期比+52億円)

#### 貴金属リサイクル事業

- Au価格の高騰に加え、宝飾分野および電子分野からのAu回収量が増加し、増収増益
- PtやAgの価格が前年同期と比較して上昇し、増益に寄与

#### 北米精錬事業

- 製品事業は依然として低迷する一方、精錬事業およびトレーディング事業は好調に推移

### 環境保全事業セグメント

売上収益 **—** 億円 (前年同期比—億円)

営業利益 **15** 億円 (前年同期比+15億円)

当期利益 **15** 億円 (前年同期比+15億円)

- 当期よりレナタス社の持分法投資損益を営業利益に計上(15億円)
- 前期にはジャパンウェイスト社の実績が含まれない一方、当期にはレナタス社の持分法投資利益が含まれる

※ 前期の売上収益、営業利益、当期利益には非継続事業の実績を含まない

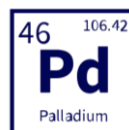
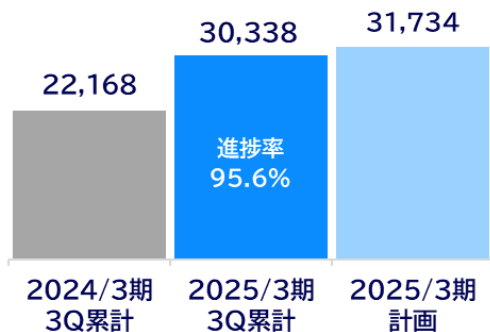
	元素別構成比				事業環境
	Au	Pd	Pt	Rh	
デンタル	 30~50%	 50~70%	 10%未満	—	<b>Au回収量</b> 前年同期比 101% 素材転換や技術革新によりリサイクル市場は依然として縮小。営業体制と施策の強化により新規顧客を確保し、前年同水準の回収量を確保。
宝飾	 70%以上	 10%未満	 10~30%	—	<b>Au回収量</b> 前年同期比 148% リサイクル意識の高まりから盛況となっている買取業界は、金価格高騰と金利上昇の影響を受けて大規模な資金が必要となり、企業の統廃合が活発化。
電子	 70%以上	 10%未満	 10%未満	—	<b>Au回収量</b> 前年同期比 105% 中国市場やEV関連の生産低迷の影響はあるものの、AI半導体関連の生産が好調であり回収量は増加。
触媒	—	 50~70%	 30~50%	 10%未満	<b>Pd回収量</b> 前年同期比 95% 大手触媒メーカーの工程改善等による環境系触媒の発生量減少の影響を受け、回収量は減少。

※ 表中のアイコンは各分野の回収量全体(Ag, Cuを除く)に占める各元素の割合を示す。  
 ※ 事業環境欄のコメントは前年同期と比較した内容。

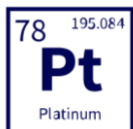
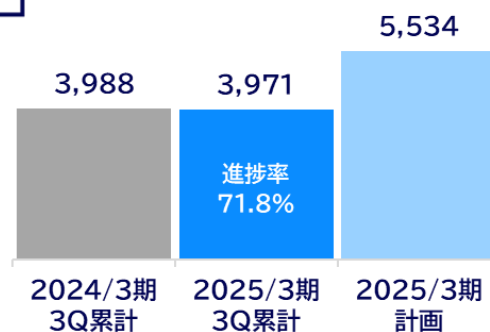




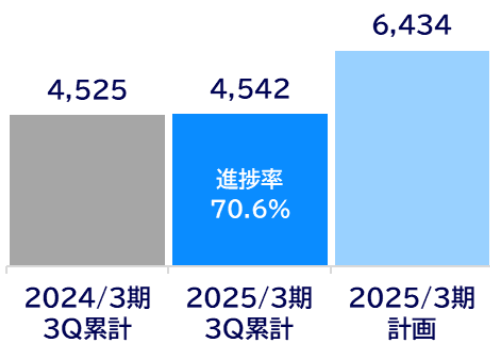
単位: kg



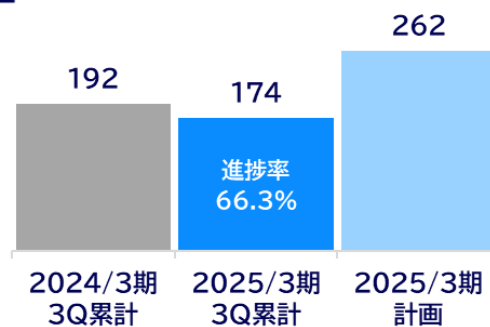
単位: kg



単位: kg



単位: kg



Au回収量の推移

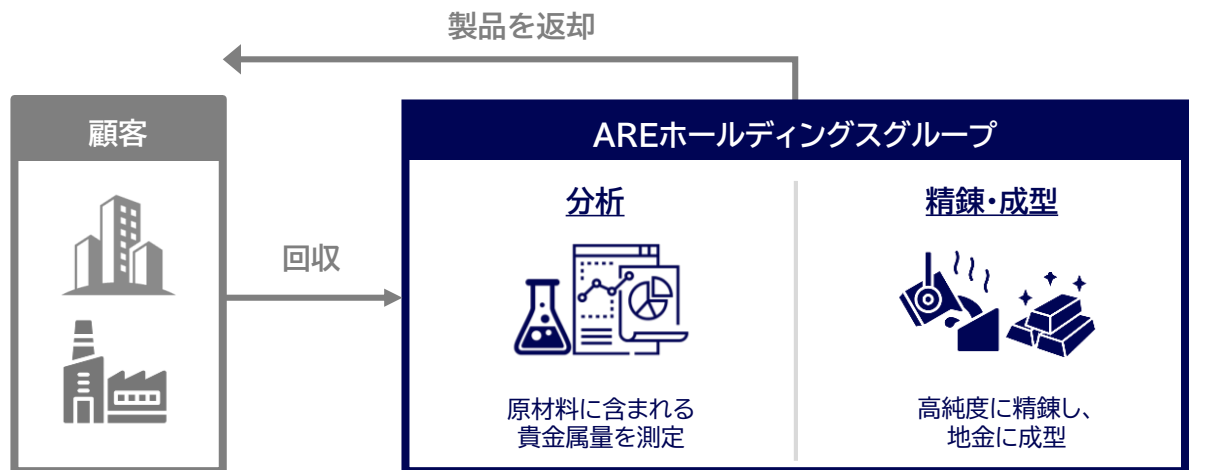
単位: kg



Point

- Au回収量の大部分は宝飾分野からの回収
- 宝飾分野からの回収は買取型取引が中心のため、売上収益の増加に大きく寄与

## 返却型取引

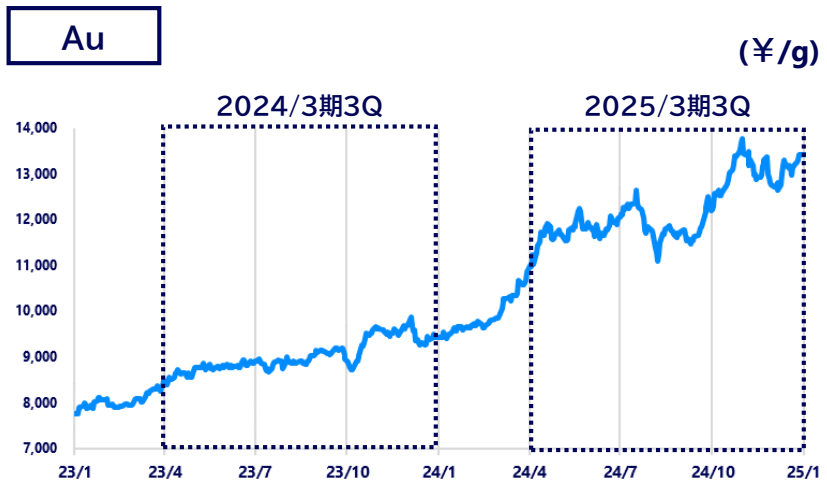


貴金属の買取が無いため、**精錬手数料のみが売上収益**となる。

## 買取型取引



回収物の購入額が売上原価となり、精錬後の**地金の販売額が売上収益**となる。



※参照:山元建値



※参照:日経安値



※参照:小売価格(税抜)



※参照:Metals Week NY Dealer Prices

## 市場参入の機会

タイには、宝飾品スクラップに含まれる白金族(Pt・Pd等)を効率的に精製できる現地企業が無い

## Point①

白金族を考慮せずAuの評価のみで売却する場合がある

## Point②

欧州の精錬業者へ委託をするため納品までのリードタイムが長い

## 当社の戦略

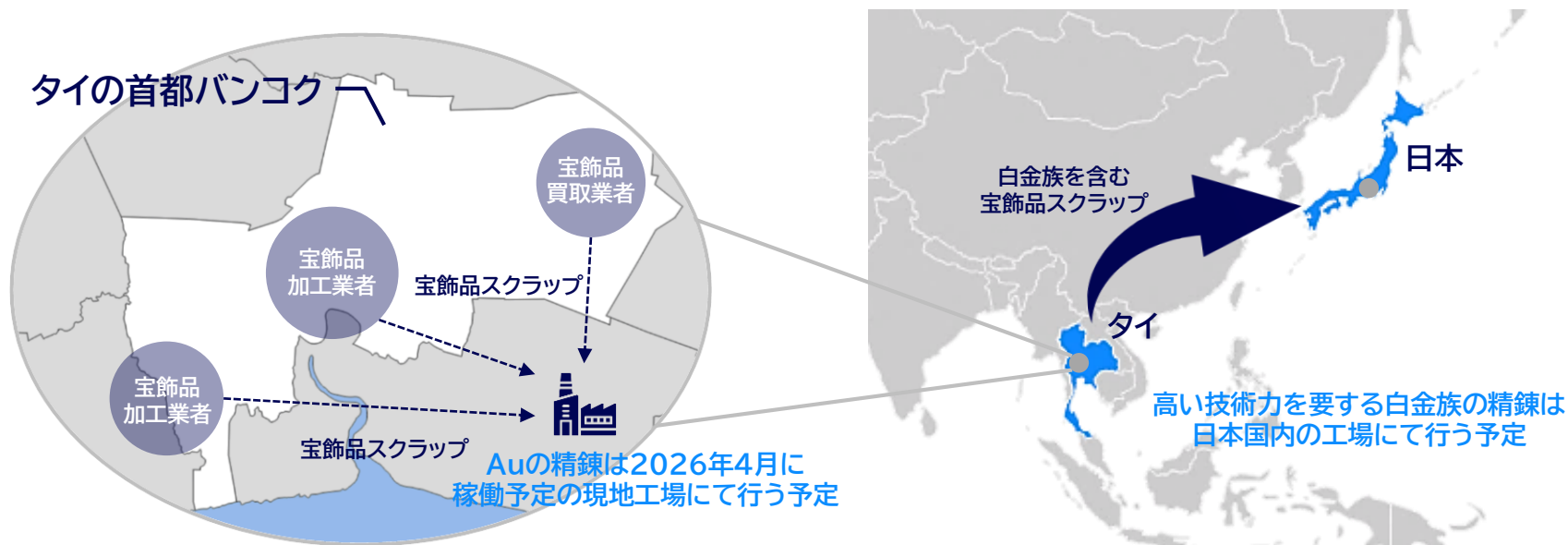
処理する貴金属によって新設予定の現地工場と日本国内の工場を使い分ける

## Point①

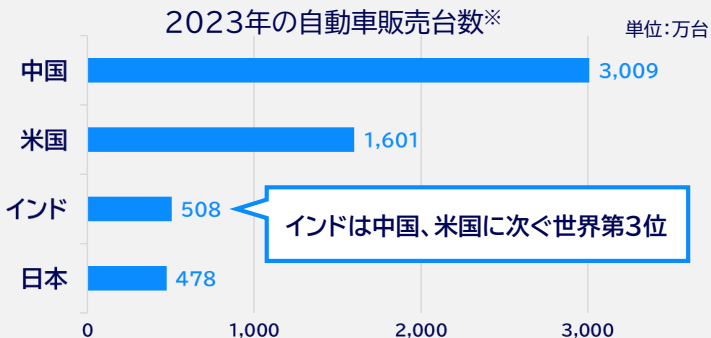
白金族を評価することで他社との差別化を図る

## Point②

地理的な優位性により納品までのリードタイムを短縮



### 成長余地の大きな自動車市場



※ 国際自動車工業会(OICA)、日本自動車販売協会連合会のデータより当社作成  
 ※ 乗用車・トラック・バスの合計台数

#### 一世帯当たりの乗用車保有率



中国  
約40%



インド  
約8%

人口規模の同じ中国に比べて  
インドは低い水準

#### 中間所得層の増加



経済成長



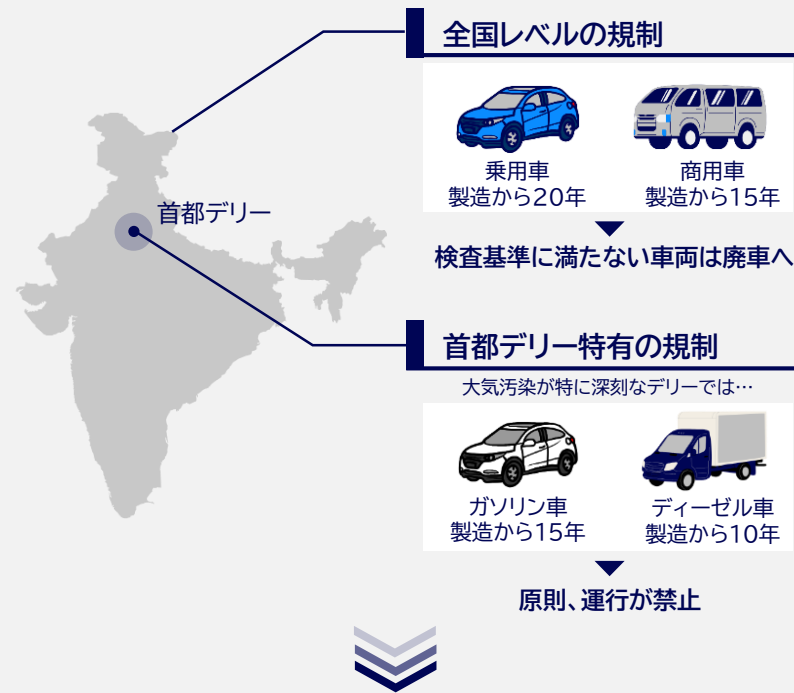
人口構成の変化

労働力人口が増え、  
経済的余裕のある層が増加

更なる自動車販売台数の増加が期待できる

### インド政府による「廃車政策」

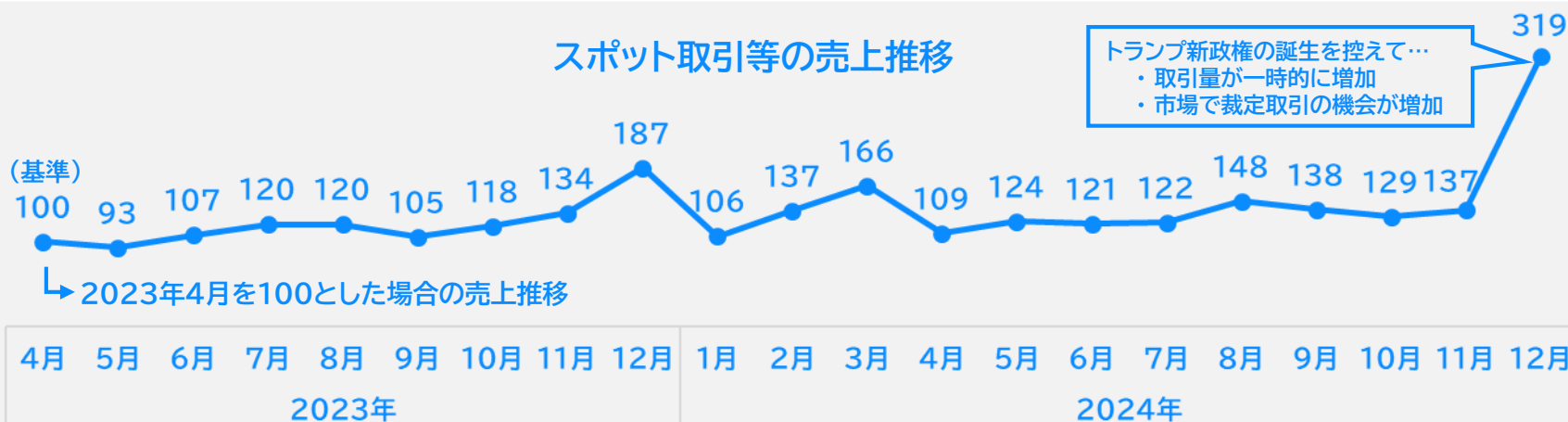
大気汚染等の環境問題への対応策として「廃車政策」が導入。  
 対象となる車には様々な規制がかかり、買い替えが促進。



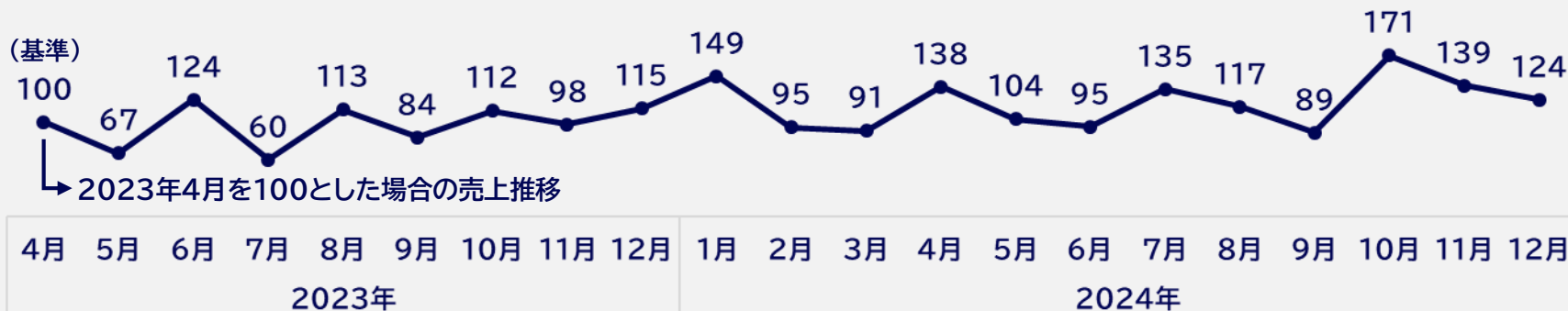
今後、廃車台数の増加が期待できる

インドは自動車触媒の回収量の増加が見込める市場であり、  
 競合他社およびその他の市場調査を強化するため、駐在拠点の設立と人員の増強を検討中。

### スポット取引等の売上推移



### 前渡し取引の売上推移

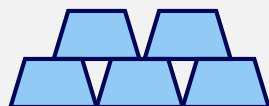


スポット取引等・前渡し取引ともに好調に推移

## COMEX適格貴金属の保管量

## Auの保管量

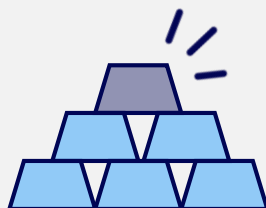
2024年9月



920 千トロイオンス

+293  
千トロイオンス

2024年12月



1,213 千トロイオンス

COMEXに認定された9社のうち  
第4位の保管量

## Agの保管量

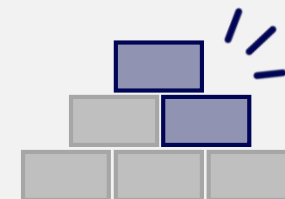
2024年9月



17,485 千トロイオンス

+8,976  
千トロイオンス

2024年12月



26,461 千トロイオンス

COMEXに認定された10社のうち  
第1位の保管量

※ COMEXの「Daily Metal Stocks Report」より当社作成  
 ※ Registeredの保管量を参照

Au・Agともに保管量は順調に増加



単位:億円

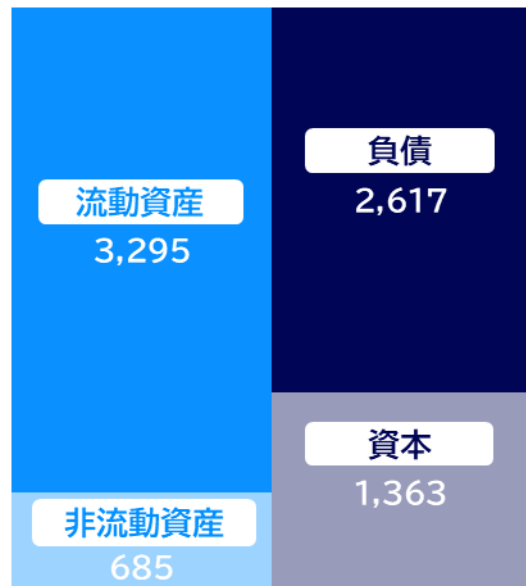
	2024年 3月末	2024年		主な増減内容	
		12月末	増減		
流動資産	2,538	3,295	+757	営業債権及びその他の債権 棚卸資産	+530 +175
非流動資産	642	685	+43		
資産合計	3,180	3,980	+800		
流動負債	1,130	1,797	+667	社債及び借入金	+667
非流動負債	785	820	+35		
資本	1,265	1,363	+98		
負債・資本合計	3,180	3,980	+800		

## Point

- ・ 北米精錬事業において、鉱山会社との前渡し取引等の増加により資産と負債が両建てで増加
- ・ 貴金属リサイクル事業において、貴金属価格の上昇と回収量の増加に伴い、ヘッジ済み在庫量が増加

## AREホールディングス連結BS

単位:億円

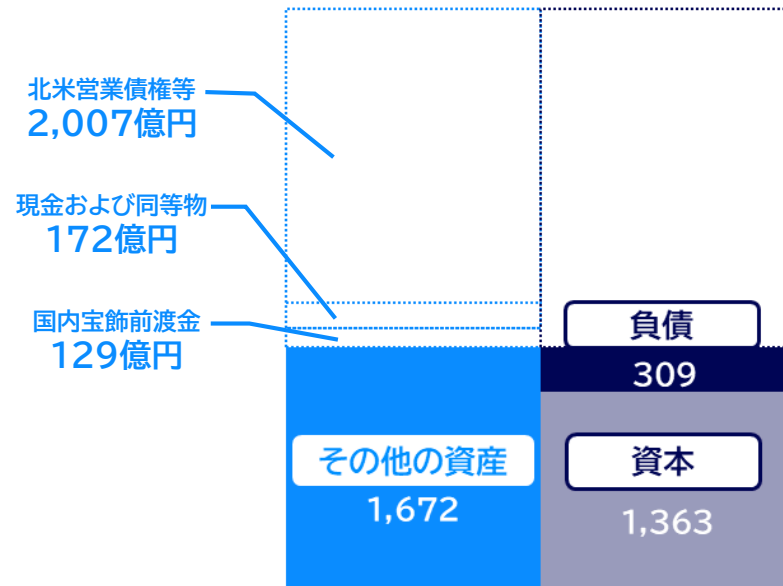


自己資本比率  
(親会社所有者帰属持分比率)

34.2%

## 換金性の高い資産を除いたBS

単位:億円



自己資本比率  
(親会社所有者帰属持分比率)

81.6%

## Point

当社の有利子負債の大部分は換金性の高い資産で裏付けされている

## 信用格付

R&amp;I A-

株式会社格付投資情報センター

- ✓ 株式会社格付投資情報センター(R&I)より新たに格付を取得
- ✓ 発行体格付は「A-」で、格付の方向性は「安定的」
- ✓ 財政状態の透明性を高め、対外的な信用力の向上と資金調達の多様化を図る

## 格付評価のポイント

## 全体

- ✓ 資本負債構成について、**実質的なリスク耐久力は表面的に見た水準よりも良好**であり、格付対比で見ても十分な水準にあると評価
- ✓ 将来的に収益力・CF創出力の改善を期待できる要素がある

## 貴金属リサイクル事業

- ✓ 分析力や全国の営業網等を背景に回収面で競争優位にある
- ✓ 回収ルートや取り扱い貴金属の種類は分散しており、事業の安定性は高い

## 北米精錬事業

- ✓ 多様な製品加工や金融サービスの提供等、独白色のある事業展開とリスクを回避する事業モデル

単位:億円

	2025/3期 3Q	主な増減内容	
営業活動によるキャッシュフロー	149	税引前利益 棚卸資産の増減 その他債権債務増減等	+153 △174 +170
投資活動によるキャッシュフロー	6	有形固定資産の取得による支出 北米事業の前渡し取引等の増減	△45 +55
財務活動によるキャッシュフロー	△ 61	借入金の増減 配当金の支払額 自己株式取得支出	+11 △65 △10
現金及び現金同等物に係る換算差額	10		
現預金の増減額	104		
現金及び現金同等物の四半期末残高	172		

## Point

- ・ 国内貴金属リサイクル事業の回収量増加により棚卸資産が増加
- ・ 財務活動は配当金支払と自己株式取得支出が中心

単位: 億円

	2024/3期 実績	2025/3期 3Q実績	2025/3期 計画	年間投資計画の主な内容
設備投資額	85	50	129	
└ 貴金属事業	61	49	126	
└└ 国内	33	19	66	坂東工場(第2期)関連・・・約50億円
└└ 海外	28	30	60	北米の銀の精錬設備更新・・・約25億円
└ その他	24	1	3	
減価償却費	36	21	31	

※「その他」には環境保全事業の設備投資を含む

## 坂東工場(第2期)

2025年  
4月竣工  
予定処理  
分野

触媒

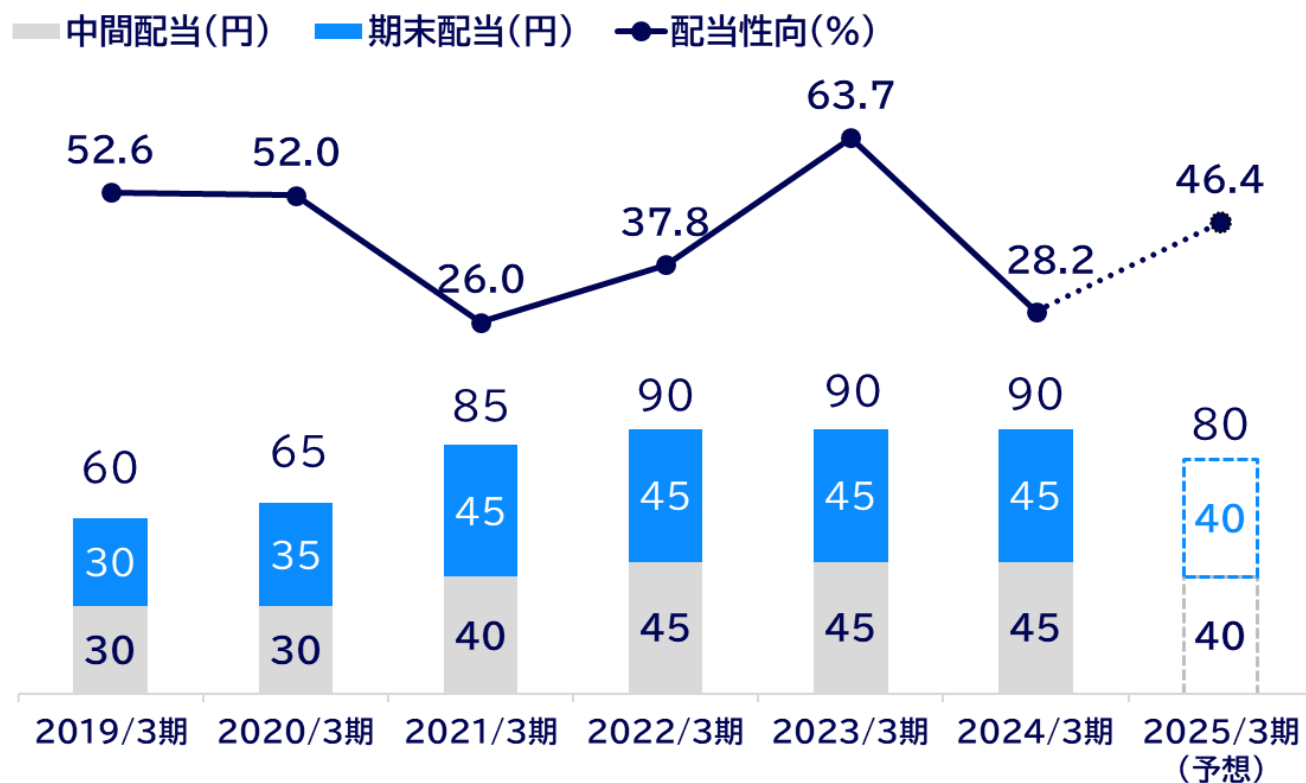


電子

取扱  
元素

## 坂東工場(第2期)がもたらす効果

- ✓ 設備更新により原料からの貴金属回収率UP
- ✓ リードタイム短縮による競争力の強化
- ✓ 外注および工場間輸送のコスト削減により収益性UP

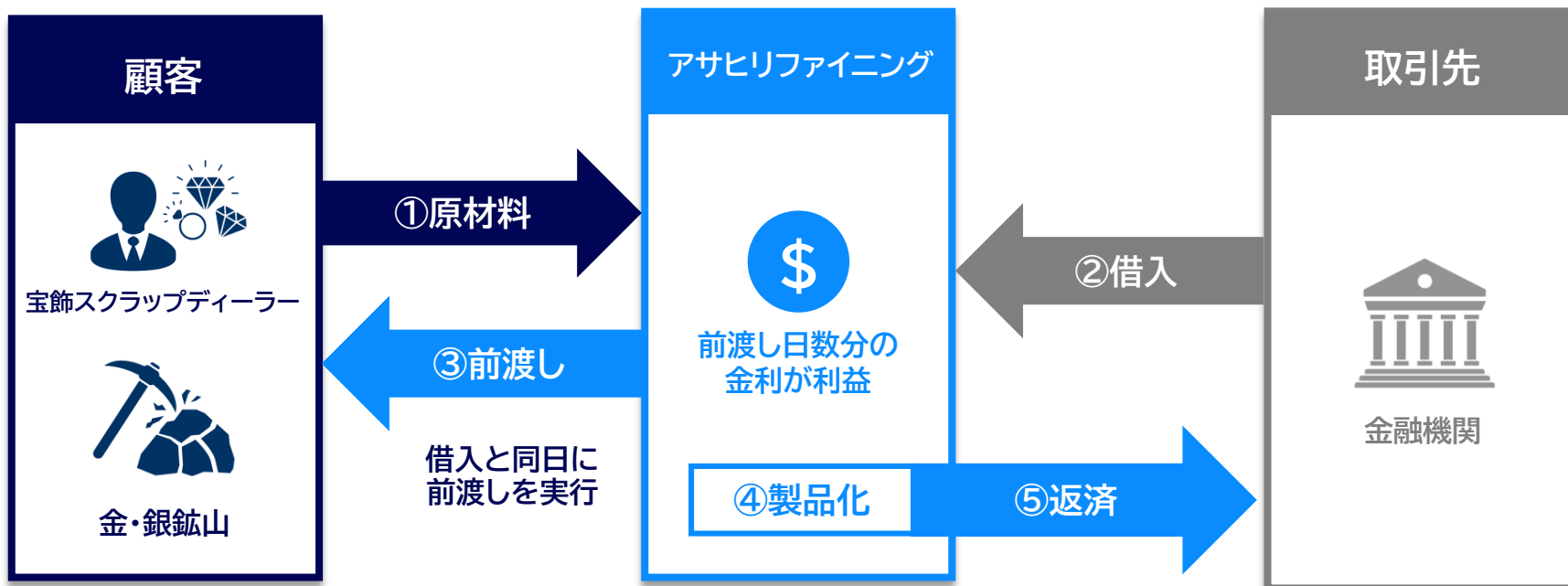


※2021年4月1日に1:2の株式分割を実施しており、2021/3期までの1株当たり配当金および1株当たり利益は分割後のベースに換算して表示

**配当性向40%を目安とした安定配当を継続。**  
**2025/3期については、自己株式取得により総還元性向は54.0%と予想。**

# I. 2025年3月期 第3四半期決算 (2024年4月～2024年12月)

## II. 参考資料



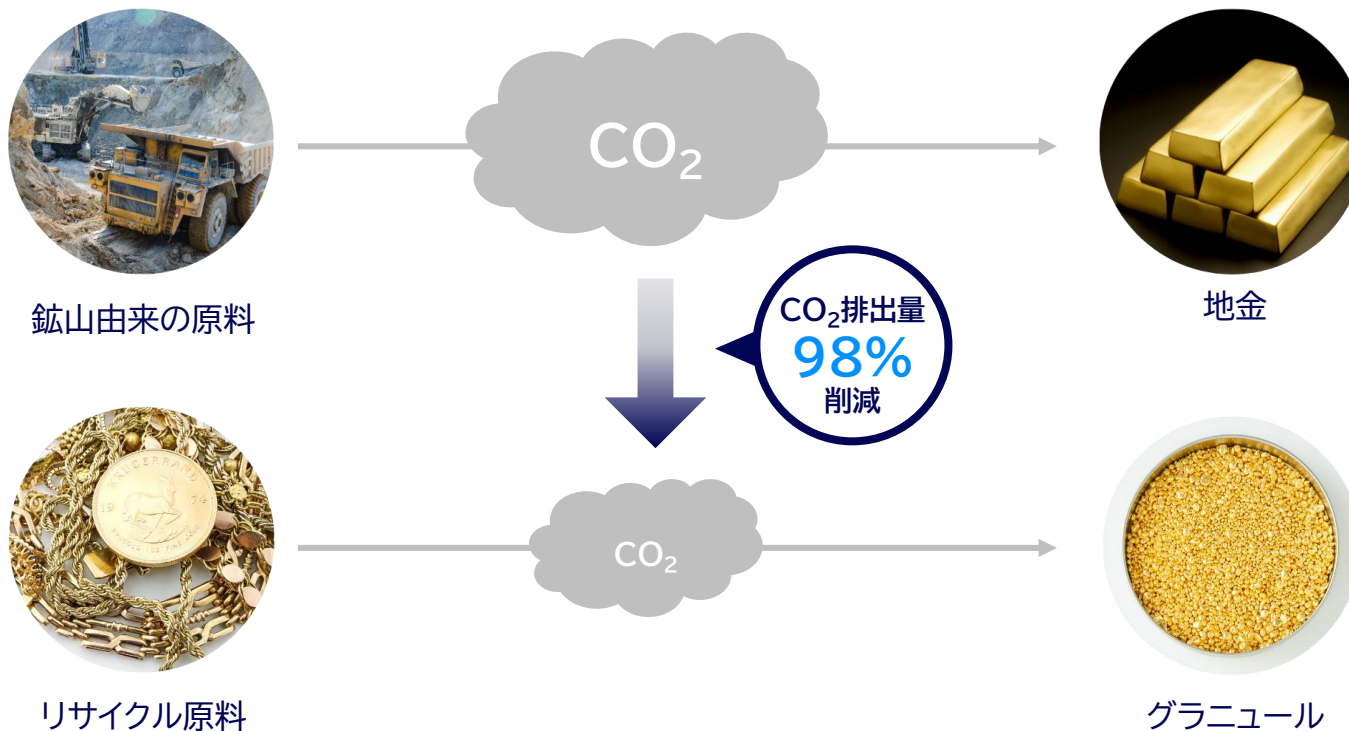
- ✓ 原材料入荷から製品返却までの納期を短縮して製品を返却
- ✓ 契約納期前に返却することで「前渡し日数分の金利」を得る
- ✓ 原材料を受領してから前渡しするため**貸倒リスクは無い**
- ✓ 資産と負債が両建てとなり、バランスシートが膨らむ要因となる



重点テーマ	重要な指標	2023年度実績	2024年度上期実績	2030年目標
 貴金属リサイクルの拡大	① 貴金属リサイクル量 ② CO <sub>2</sub> 削減外部貢献量	① 231トン ② 60.0万トン-CO <sub>2</sub>	① 183トン ② 37.6万トン-CO <sub>2</sub>	① 300トン ② 83.7万トン-CO <sub>2</sub>
 人・社会・環境にやさしい 貴金属供給	各種認証の取得	RJCにおいて 監査報告書の要約を公開	UL2809認証を 新たに取得	—
 CO <sub>2</sub> 排出量の削減	Scope1+2	2015年度比△31% CO <sub>2</sub> 排出量:19.4千トン	前年同期比△21%	2015年度比△63% CO <sub>2</sub> 排出量:10.4千トン ※2015年度以降に増減した事業分は除く
 ワークライフバランスと ダイバーシティの基盤充実	① 11時間のインターバル 勤務達成率 ② 女性管理職比率 ③ 男性育休・育児目的特 別休暇取得率	① 99.9% ② 5.0% ③ 76.9%(男性育休取得 率は38.5%)	① 99.9% ② 4.7% ③ 100%(男性育休取得 率は75%)	① 100%達成 ② 7.0% ③ 100%
 SDGs活動の奨励・支援	アサヒクリーンプロジェクト (清掃活動)の実施・奨励	アサヒクリーンプロジェクト 69回(614名が参加)	アサヒクリーンプロジェクト 28回(169名が参加)	—

## 金のグラニュール製品のカーボンフットプリント(CFP)を取得

当社の主力製品である99.99%金グラニュールに対し、原料回収から製品製造までのCO<sub>2</sub>排出量の算定並びにISO14040:2006、ISO14044:2006に基づいた第三者検証を実施。



リサイクル原料から作られる当社のグラニュール製品は、採掘由来の原料を使用した地金に比べて、製造過程で排出されるCO<sub>2</sub>発生量を約98%削減できる。

TSRの目標達成度を組み込んだ取締役の報酬体系「PLAN II」

取締役の報酬 = 業績連動型株式報酬 + 基本報酬 + 賞与



PLAN I  
(2024年3月に終了)

連結営業利益の目標達成率  
に対するポイント数



PLAN II

連結営業利益の目標達成率  
に対するポイント数

×

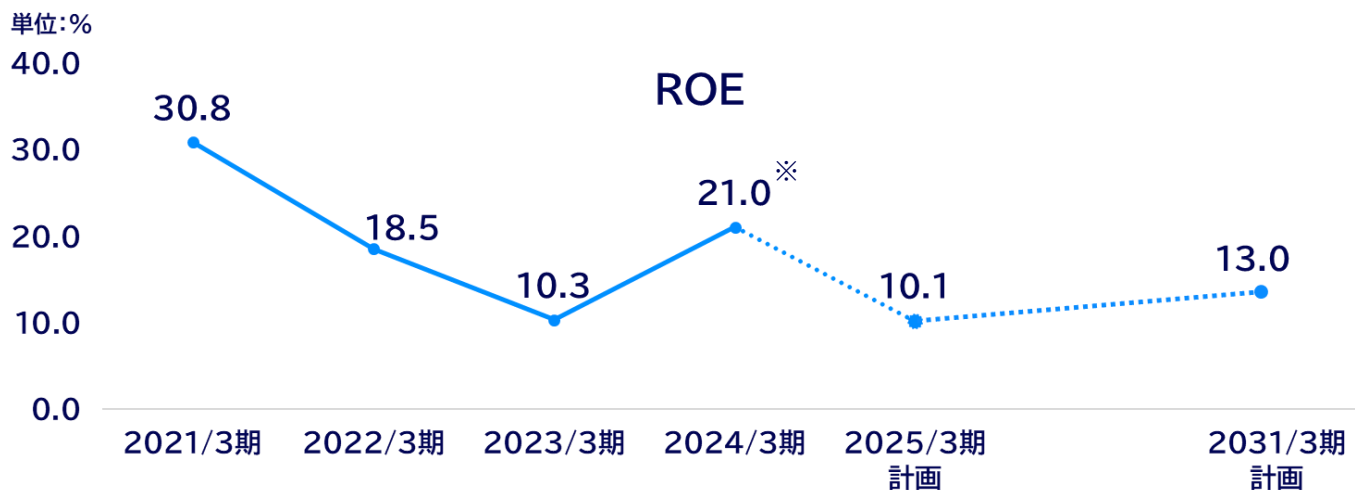
2年間のTSRの目標達成度



Point

TSRの目標達成度を報酬体系に組み込むことで…

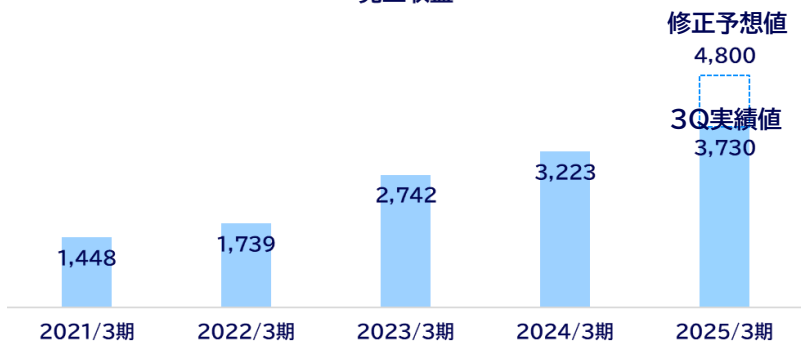
中長期的な企業価値および株主価値の向上に対するインセンティブを強化



※レナタス社とジャパンウェイト社の株式交換による影響を含む

単位:億円

売上収益



単位:億円

営業利益

